

一二月八日から始まつた被占領地パレスチナ人民の蜂起は、今日で三日めに入った。イスラエルが認めただけでも二六人の虐殺があつたが、それでも屈せず、人民の英雄的な闘争が続けられている。

**一 被占領地パレスチナ人民の蜂起**

先月号で報告したごとく、一二月頭とする闘いが、先月段階での反動の投降主義の流れを阻止し、民族解放の闘いの新たな地平を作り出している。

この蜂起は、新しい流れを作り出している。被占領地人民の闘いを先頭とする闘いが、先月段階での反動の投降主義の流れを阻止し、民族解放の闘いの新たな地平を作り出して

蜂起は、燎原の火のごとく燃え上つ

る。今月は、被占領地パレスチナ人民の蜂起を中心に、どのような質的変化が起こったのか、今後の展望はどうか等をみていただきたい。

まず、第一段階としては、約二週間の連日のデモ、ストで四四人<sup>(1)</sup>も虐殺されたが、それにも屈せず、シ

日本。詳しくは、日誌を参照してほしい。この一月間の闘い方は、一二月二日のゼネストまでと、それ以降とに分けられるだろう。

生きるために闘いを展開しているのである。

## 流れを変える人民蜂起

一九八八年一月一〇日

# 月刊 中東レポート

第31号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL (03)291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費20000円

### 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 流れを変える人民蜂起                            | 1  |
| 国外追放命令を受けた9人(資料①)                     | 7  |
| パレスチナ人民の証言(資料②)                       | 7  |
| 赤軍声明(資料③)                             | 8  |
| 1987年度南部レバノンの反イスラエル・レジスタンス統計<br>(資料④) | 8  |
| PFLP声明(資料⑤)                           | 9  |
| 激動の中東ドキュメント(1987年12月8日~1988年1月7日)     | 10 |

蜂起の火の手は、キャンプから上  
った。イスラエルは、すでにキャン  
プの中でも頑強に抵抗するキャンプ  
を鉄条網、石の壁(ブロック)で閉  
じ、人民の闘いが燃え上る度に、出  
入口を閉鎖し、外出禁止令<sup>(3)</sup>、行政

闘いが、ガザ、西岸総体の蜂起へと拡大したと言える。前段階では、まだ点であつたものが、線、面へと拡大した。

イスラエルの側は、弾圧の方法を「法的」に行い始めた。前段階での鎮圧の仕方が、国際世論の非難の集中砲火を浴びたこともあるが、二七日から「騒乱罪」裁判が開始され、一月三日には、「首謀者」九人の国外追放が決定された。イスラエルの軍事法廷は、弁護士ぬき裁判に等しく、「被告」がどこに収容されているのか、証拠は何か等、弁護士にはわからぬいしくみである。すべて、占領当局の「軍事機密」「国家の安全」という名目で、明らかにされない。このため、ガザのパレスチナ人弁護士は、「公正な裁判たりえない」として、裁判のボイコットを宣言した。ガザでは、日に二〇件以上、ひどい所では、数分に一件の割合で決審され、最高一年間の実刑に加えて多額の罰金刑が続々と科されていった。一月六日段階で、ラビン国防相は、三〇〇人に判決が下ったとしている。

この裁判茶番劇がいかなるものか歐米報道陣でさえ、あまりの野蛮さに、目を見張った。

イスラエルは、パレスチナ人民の息子たちを、ガムテープで後手にしぱり上げ、銃の掃除に使ったボロ布で目かくしして、「被告」として、法廷にひきずり出すのである。逮捕後の拷問が一目でわかるケースが多い。そんな虐待をうけてもなお、パレスチナ人民、そして少年たちも、裁判長に対して、「お前に僕を裁く権利はない」と、毅然と対決している。傍聴に来た母親たちは、そうした息子たちに呼応し、シオニスト警備兵に対して、断固として闘つた。たとえ銃床でなぐられ、ゴム弾を足にうけ、一メートルもの警棒でなぐられようと。この「騒乱罪」裁判はガザ、ラマッラー、ヘブロン、ナブルス、トルクラムで進行中であり、今後の焦点となるだろう。ガザではもつとも若い「被告」は一二歳であった。

た人々である。残る七人も、何度も投獄されて闘い続けてきた戦士たちである。

国際世論は、この追放に反対し、ヨルダン、エジプトですら、「追放されたパレスチナ人を入国させない」と言わざるをえなくなっているし、米帝も、反対している。ヨルダン、エジプトは、従来、黙つて入国させイスラエルの弾圧を黙認してきた。

パレスチナ人民は、この追放令を政治焦点として、さらに蜂起を拡大させてきた。イスラエルの弾圧の一つひとつが、抵抗の糧となり、闘いを燃え上がらせていく関係になつてゐる。弾圧が抵抗を鍛えている。そして、一月六日には、八日からの「不服従」キャンペーンが宣言された。これは、イスラエル製品のボイコットからスタートし、納税拒否、"四年ライン"内での就業拒否までを展望したもので、イスラエル支配に対する全面的な抵抗であり、ゼネスト宣言である。

この段階でシャミル政権をゆるがしたのは、一つには、蜂起が收まるどころか拡大していることである。鎮圧部隊の倍増も、火に油を注ぐことにしかならなかつたし、悪質な窒息ガス使用も、人民をひるませるこ

とはできなかつた。二つめは、イスラエル軍予備役一五〇人以上が「鎮圧用動員には応じない」声明を発表したことである。イスラエル自身は軍事機密として、公表していないものの、イスラエル軍の予備役は、三万（八六年段階）とも言われている。三三万の中の一五〇人。これは数の上では、ほんのわずかでしかない。しかし、この二〇年間最悪といい。イスラエルが憂慮する今回の蜂起時に一五〇人の予備役が「動員拒否」を宣言したことの衝撃は、計り知れないと言わねばならない。八二年のレバノン侵略戦争を機に、「自衛するイスラエル」という神話が崩れてきたのに加え、今回の蜂起に対してもイスラエル軍内にき裂が生じているということは、シオニストにとっては、看過できない問題である。一二月段階のあるイスラエル国内世論調査では、蜂起の鎮圧をより強硬にするべしとする回答が六九%，追放支持が六%とのことである。

八二年以来動搖してきたシオニストの国論統一が、再びシオニストの実体を明確にさらけ出したことにより、さらに分解へと向かっていくだろう。イスラエル内進歩派の呼応、そして政権内の動搖が起こってきて

拘留<sup>④</sup>、追放<sup>⑤</sup>等の手口でおさえこ  
もうとしてきた。占領軍と闘うこと  
によつてしか、未来も、人民・民族  
としての尊厳も手にできない。パレス  
チナ人民、とくに青年が、キャンプ  
で闘いの先頭に立ってきた。今回の  
蜂起では、死者、逮捕者の圧倒的多  
数が青少年であつたこと、これは、  
イスラエルも認めている事実である。  
生まれた時から被占領生活しか知  
らず、目の前にいつもシオニスト占  
領軍の横暴を見て育つたパレスチナ  
人民の若い世代の怒りが、イスラエ  
ル軍に対して投石、火炎びん、鉄バ  
イブ、ナイフ等、手にしうる武器を  
持って、人民蜂起の口火を切つた。  
ガザのジャバリエ（六万五〇〇〇人）、  
アル・ダレイジ、ヌセイラト等のキ  
ヤンプで、こうした死を恐れぬ闘い  
が燃え上つたのに對して、イスラエ  
ル軍は、躊躇なく銃撃を加えた。い  
つものやり口であつた。シオニスト  
は、実弾による射殺を行うことによ  
つて、パレスチナ人民がひるむこと  
を期待した。青少年たちの死をも恐  
れぬ闘いに牽引され、親たちも蜂起  
の闘いに加わつた。とくに母親たち  
の闘い方は徹底している。実弾、ガ  
ス銃、警棒で武装したイスラエル軍  
に抗議し、つかみかかり、蹴られよ

うと、銃床でなぐられようと、射たれよう、息子、夫、兄弟を返せと挑む闘いであった。自らナイフをかざして、イスラエル兵を攻撃し、殺された婦人もいる。

こうした闘いの持続が、四八年ライン内にパレスチナ人民、イスラエルの進歩勢力の呼応を作つた。二一日のゼネスト、これこそ、シャミル政権をゆるがしたのである。なぜなら、四八年ライン内にパレスチナ人民は「イスラエル市民権」を与えられ、六七年ラインのパレスチナ人民は「難民」とされ分断されてきたのだが、四〇年、二〇年たつても、一つの民族としての意識、そのための自己犠牲的闘いを展開する力を示したからである。「土地の日」の闘いの伝統を持つ「四八年ライン」北部のパレスチナ人民は、とくに激しく闘つた。さらには、パレスチナエジプト青年層のそれは、注目されるべきである。カイロのアイン・シヤムス大学では、この一二月二一日、連帶集会、デモを行い、駐カイロ・イスラエル大使追放要求をムバラク政権につきつけた。ガザ、西岸のレジスタンス、蜂起は当然でも、四

八年ライン」のパレスチナ人民の呼応があつたことは、イスラエルに対する脅威であつた。イスラエルは、パレスチナ人が「テロリスト」であると決めつけて、血の弾圧の正当化を計つたが、シオニスト・イスラエルの本質は明確であつた。素手で、生きるために闘うパレスチナ人民を、平然と虐殺している事実、これは、シオニスト自身がテロリストであるということを証明した。

イスラエルは、この発展に危険を感じた。さらに、一二月二三日、国連がイスラエルの鎮圧の仕方に對する弾劾決議を採択し（六年ぶり）、米帝が初めて反イスラエル決議に棄権した。その数時間後、ガザ、西岸で無差別大量検挙キヤンペーンを行ない、蜂起を收拾しようとした。このキヤンペーンは、蜂起に直接参加した、しないに關係なく、日夜おし入り、男性を拉致、暴行、拷問したうえに、急設の「収容所」にぶちこんだのである。このキヤンペーンで、二五〇〇人⑥が逮捕されたとパレスチナ筋は言つてゐる。虐殺で脅し、大量逮捕で芽を摘み取つておけば、事態の收拾は可能と、イスラエルは判断していたのだろう。

らず、シオニストの眞の姿を世界に示した。それは、シオニストの戦略同盟者である米帝でも、シオニスト非難の立場に立たせることになつたし、国際世論は、いっせいに、シオニストを非難した。

シオニストは、ガザ、西岸で蜂起の激しいキャンプを「軍管区」と称して、報道人を閉め出し、シオニスト占領軍の蛮行を世界の目からかくそうとした。

パレスチナ人民は、いかなる弾圧にも屈しない決意を燃やして、さらに寛いを継続していくのである。

この段階になると、青少年が街頭で闘うのに加え、商店スト、『四八年ライン』内への出稼ぎ拒否が始まわり、イスラエルの占領政策が破綻していることを全世界に証明した。キャンプを閉鎖し、キャンプ人民を飢えさせても、蜂起は終了しなかつたのである。そして、ベツレヘムの市長フレイジをして、クリスマス行事中止を宣言させるところまでいった。フレイジは、ヨルダン派として、イスラエルと共同歩調をとってきた人物である。こうして、八七年のエルサレムのクリスマスは、戒厳令クリスマスとなつた。

この段階で、先頭切つた青少年の

エジプトの政治的立場を悪化させ、ガルフ反動諸国とエジプトの共同を難しくさせている。これらは、イランとの関係を維持してきたシリアの政治的位置を高め、シリア・イニシアチブによるアラブ領土バースラへの攻撃の方向を開いている。シリアは伊朗によるアラブ領土バースラへの攻撃に反対する立場を明言し、それをもつて、GCC諸国への和解の働きかけを行ってきた。こうした要素と動きから、GCC首脳会議声明が、対イラン強硬の立場をトレンダウンさせることになつていったと言えるだろう。

米帝が、一〇月中旬の株の暴落以来、財政赤字削減を問われ、月二〇〇〇万ドルのガルフでの出費をおさえねばならない必要性に迫られているという米帝側の条件がある。また、米国内世論がガルフ政策への批判を強めている等、今年の大統領選をならんで流動する要素が強まっているとして、一月四日からガルフ諸国歴訪を行つた米国防長官カーラー・チガルフからの米艦隊撤退をおわす発言を始めたことなど、GCC諸国としても、米帝が米帝の利害にのつてのみ行動する以上、自衛の方向

を独自に見出さざるをえないといふ動搖がある。

三  
結び

パレスチナ人民の蜂起は、レバノン人民による対シオニスト占領軍——オニストの手先に対する闘いの強さ、被占領地人民の闘いの支援のた

本文注

(2) イスラエル側は、三人としている。  
② 四八年ライン  
一九四八年一月二九日の国連分割決議で規定された領土。イスラエルは、同決議がイスラエル、パレスチナに領土を分割したにもかかわらず、パレスチナ国分をも併

許においても、被占領地人民の闘いの支援、エジプトのシオニストとの関係を糾弾する闘いが強まっている。こうしたことの総体が、何よりも、パレスチナ勢力にパレスチナ勢力自身の統一を求めている。

今こそ、反帝勢力が統一し、人民の不屈の闘いを支援し、米帝・シオニストを孤立化させていく必要があるし、それによつてこそ、アラブ民族の解放へむけた前進がかちとられるのである。

めの連帯行動という呼応を作り出し  
それが、パレスチナーレバノン両人  
民の團結を新たな地平で培おうとし  
ている。そして、被占領地人民の闘  
いの支援を通して、PLOとシリア  
が共に闘うという条件が煮つまつて  
いる。

(3) イスラエルは、キャンプ、村、町全体に外出禁止令を出し、人民に對して、占領支配に屈するよう要求してきた。夜間外出禁止令だけでなく、日中もキャンプ、住居から出ることを禁止するので、實質的に生活全体への弾圧である。

(4) 行政拘留は、英帝がパレスチナ信託統治時代使つた弾圧手段。現在、英外務省中東局長マラーが、イスラエル当局の被占領地支配現場で批判したことから、英—イスラエルの外交的対立となつてゐる。しかし、シャミル政権は、「英時代の合法的手段を踏襲しただけ」としており、それは事實である。植民地主義は、同じ手口で占領、支配するということである。

(5) 追放も、(4)に同じ。八五年から、イスラエルは、「西岸、ガザの生活の質の向上」をうち出す反面、英植民地時代の行政拘留、追放を復活させ、投降主義的解決に反対する人民、先進人士を被占領地から追い出してきた。

イスラエルは、八五年から追放したパレスチナ人は一八人のみとしているが、実は四四人である。同

の反動主導の投降主義、つまり、ハレスチナ問題を小さな問題にして、イスラエルと直接交渉、個別交渉していく傾向への、明確な拒否である。そして、被占領地人民は、蜂起によつて、在外指導部たるPLOの指導を問うてもいる。PLO内では、アラファト議長等、亡命政権構想をこの時期にうち出そうとする潮流といつさいを被占領地人民の蜂起支援に向けることを主張するPFLPなどの潮流との意見の相違が存在している。総体として、どのように、被占領地人民の蜂起が切り拓いた地平を支え、発展させるのかが問われているのである。アラファト議長による亡命政権構想の発表、その後のバグダッドでのPLO執行委員会とし

碎していく力があること、これを人の闘いが示したパレスチナ革命の新しい質的飛躍が指導部に問われている。

そうした意味で、PFLP創立二十周年集会でのハバシュ議長演説はパレスチナ指導部の転換を促すものとして、意義のあるものであった。ハバシュ議長は、「被占領地人民の闘いは、我々の地平を越えて進んでおり、被占領地人民に闘いの主導権を与えるべきである」と呼びかけたこの方向性の中に、パレスチナ民族解放闘争の転換の方向があり、勝利への道がある。

一月のアンマン・サミット後、実質的にアラブ世界に復帰したエジプト反動にとって、さらに、実体的

## 二 ガルフ戦争問題の流

二 ガルフ戦争問題の流动  
中東におけるもう一つの焦点であるガルフ戦争も、新たな様相を示している。  
一つは、一二月二九日の第八回G C首脳会議声明に示されたような、対イラン対決姿勢のトーランダウンである。もう一つは、米帝が米艦隊の敗北で撤退をおわせ始めていることである。これは、米帝の中東政策の敗北である。

ガルフ問題を軸にアラブ復帰をかちとったエジプトにとつても、ガルフ問題を利用して、アラブ反動を投降主義へ導こうとしたが、その意図が破産している。

ガルフ諸国は、エジプトの軍事力をもつてイランに対抗する力をつけようとしてきたし、クウェート等は、エジプトの軍事顧問を入れている。ガルフ反動諸国、とくにクウェート、サウジ等の対イラン強硬姿勢にもかかわらず、イランは、いっそ攻勢の立場を示してきた。そして、米帝の軍事恫喝に屈しない立場は、GCC諸国内に動搖をひき出してきた。



⑦ 一二月度のレジスタンス  
イスラエル軍「SLA」攻撃件数  
せん滅したイスラエル軍 二名  
せん滅した「SLA」軍 八名  
負傷させたイスラエル軍 四名  
負傷させた「SLA」軍 二五名  
六〇回  
資料⑤

## PF LP 声明

占領された祖国のあらゆる都市、  
村、キャンプでの人民の蜂起はこの  
日一二三日目を迎え、敵シオニストの横  
暴とパレスチナの男、女、老人、子  
供に対するすべてのテロ的手段の行  
使に力強く立ち向かっています。  
私たちはこの日にあたり、譲歩で

PFLP 声明

区、カサ、一九四八年の占領地内  
都市、村、キャンプの住民に敬意を  
表します。彼らはこれまでにない強  
固さをもつて占領の拒否を示し、「自  
治統治」「共同統治（コンドミニウ  
ム）」「P.L.O.に代わる代表」その  
他、名目はどうあれ、パレスチナ人  
の合法的権利を消し去るすべての策  
動との闘いを続ける決意を示してい  
ます。

この蜂起を目の当たりにする者に  
とって疑いもなく明白なことは、こ  
の蜂起がテロを振りかざすシオニス  
トを震撼させるに十分な広がりと発  
展を持ち、そしてパレスチナ人民の  
団結と占領を終わらせることをめざ  
したパレスチナ革命への彼ら自身の  
理解を示す、質の高い蜂起であるこ  
とです。

十の殉教者と数百に上る負傷者が逮捕され、長期にわたる鉄拳政策を振りかざすシオニストのテロのもとでパレスチナ人民の受けた傷には目を向けなければなりませんが、このことは反面で、大衆レベルでのパレスチナ人の軍事的・政治的民族闘争を継続させ、人民の蜂起の拡大を保証するためには必要な支援をますます広げることになったことは疑いありません。このようにして、シオニストによるパレスチナ占領を終わらせることが、以上の観点から、私たちは、西岸とガザのパレスチナ民衆に対し、勇敢な蜂起を引き続き拡大させることを訴えます。また、一九四八年占領

同時に、私たちには占領地外のパレスチナ民衆に、あらゆる運動を通じて蜂起を支援するよう訴えます。こうして、占領に対する闘いの中で、人民の団結が確認され、人民の PLO とその民族政策への支持がうち込められるのです。

継続拡大するパレスチナ人の蜂起はたんなる連帯とみせかけだけの支援から、帝国主義・シオニスト・アラブ反動の抑圧に抗してアラブ情勢を転換させる可能性を持った実際的な行動へと変えるための有利な政治的条件を作り出さずにはおかないでしょう。

人民の蜂起を支援するために次のことが必要です。

第一に、レバノン民族主義者とパレスチナ人の同盟を復活させ、固め

二月度のレジスタンス  
ラエル軍「S LA」攻撃件数  
滅したイスラエル軍 二名  
減した「S LA」軍 八名  
させたイスラエル軍 四名  
させた「S LA」軍 二五名  
六〇回

区  
カサ  
一九四八年の占領地内の  
都市、村、キャンプの住民に敬意を  
表します。彼らはこれまでにない強  
固さをもって占領の拒否を示し、「自  
治統治」「共同統治（コンドミニウ  
ム）」「PLOに代わる代表」その  
他、名目はどうあれ、パレスチナ人  
の合法的権利を消し去るすべての策  
動との闘いを続ける決意を示してい  
ます。

十の殉教者と数百に上る負傷者が逮捕され、これが原因で、この事件は世界中で報道されました。

長期にわたる鉄拳政策を振りかざすシオニストのテロのもとでパレスチナ人民の受けた傷には目を向けなければなりませんが、このことは反面で、大衆レベルでのパレスチナ人の軍事的・政治的民族闘争を継続させ、人民の蜂起の拡大を保証するためには必要な支援をますます広げることになります。

同時に、私たちは占領地外のパレスチナ民衆に、あらゆる運動を通じて蜂起を支援するよう訴えます。こうして、占領に対する闘いの中で、人民の団結が確認され、人民の PLO とその民族政策への支持がうち固定められるのです。

(2)レジスタンス側がせん滅したイスラエル軍 一二名  
 (3)レジスタンス側が負傷させたイスラエル軍 七二名  
 (4)レジスタンス側がせん滅した「S LA」軍 六四名  
 (5)レジスタンス側が負傷させた「S LA」軍 一二五名  
 (6)レジスタンス側のイスラエル北部へのロケット砲攻撃 三〇回(イスラエル軍が「確忍」を主戦力)

きない民族的権利と、唯一合法的な代表P.L.O.に対するパレスチナ大衆の確固とした支持を改めて高く評価するものです。そしてまず第一に英雄的な蜂起の中で犠牲となつた殉教者への賛辞を送らなければなりません。彼らは自らの生命と祖国の石をもつてシオニストの近代兵器に立ち向かつたのです。

この蜂起が日一日と巨大な人民の革命に転化し、占領地の軍隊がこれを押しとどめることに失敗するのを見えてることは容易です。同時にこの蜂起が広範な市民の抵抗運動に発展する可能性も含まれています。

蜂起に対する血なまぐさく、残酷なイスラエルの報復は明確に英雄的なパレスチナ人民が表現する意義と本質を浮き彫りにしています。血に飢えたイスラエルの復讐により、数

地のパレスチナ民衆に対し、シオニストの占領と抑圧政策に反対する闘いを拡大させ、すべての占領地での決起を組織するよう訴えます。このことが、パレスチナ人民の闘いの団結をもたらし、わが人民の国土と権利に対する執着を生み、そして、帰還の権利の達成と自決、独立したパレスチナ国家の建設によってのみパレスチナ問題が解決されることを明確に打ち出す手段なのです。

月刊 中東レポート  
1988年2月29日 第31号

裏切者の汚名を覚悟せねばならないからだ。ガザのような社会で、それは耐えられないことだ」  
——アラブ・ニューズ一二月一九日号

#### 四、ベツレヘムのハマド氏

「私の三人の息子たちは、私の世代とはまつたく違う。一九六七年のアラブの敗北を見なかつた分、劣等感がない。しかし、もつとも重要なのは、息子たちは、自分たちの行動次第で世界を変えられると信じていることだ。信念に燃えているのだ。私の世代がやつつけられ、無念さ、無力さに悶々としているのに比べ、彼らの世代は、私たちとは違う」

バマド氏にはハイサム、スヘルルサー・デイルという二〇歳の息子が三人居る。次男のスヘルル君は八二年

「私たちには自分たちの国に住んでいいけれど、難民扱いされています。でも、家族の中では誰も彼も、アーデルのことを誇りにしているんです」ナファ・ハマド氏も、一月三日、追放令をうけ、連行された。

六、アーデル・バシール・ナファ・ハマド氏のお母さんサラさん

七、ジブリル・マハムード・ラジュ  
ブ氏の夫人ヒバさん

二、シオニストこそテロリストである。こうしたテロに對して闘うこと、我々は、世界の人々に呼びかける。我々は、また、パレスチナ被占領地人民の闘いを支援することを、世界の人々に呼びかける。

三、パレスチナ被占領地人民の英雄的闘いが、中東における反動の流れを阻止していること、また、パレスチナ解放への圧倒的前進を作り出していることを評価するとともに、人民の不屈の闘いこそが、反帝人民解放への道であることを確信する。

四、日本の闘う人民、同志、友人に訴える。

おいて、反帝闘争を闘いぬき、パレスチナ被占領地人民の闘いを支援・連帶していく決意です。

米帝を世界各地から叩き出せ！  
シオニズム打倒！

被占領地人民の闘い、万歳！  
反帝勢力の団結、万歳！  
警察発表）

資料④

一九八七年度南部レバノンの反イスラエル・レジスタンス統計（レバノン  
警察発表）

一九八八年一月八日

①レジスタンス側の対イスラエル軍  
「S-A」（支那軍）  
（二十二）四

ない方法で情況にとりくんでいける」と感じてゐる。それに、若者は、投石にむいた強い腕、追跡してくるイスラエル軍をふりきれる速い足にも恵まれてゐるし」

アブ・ラハメ氏は、ガザの弁護士パレスチナーヨルダン合同代表団の一人と尊されてきた。

### 三、ガザ市長シャワ氏のおい

「一四歳の息子に、デモに行くなと止めたが、止められなかつた。もし

デモ中にイスラエル軍の催涙弾直撃  
弾を頭にうけ、重傷を負った。  
——ヘラルド・トリビューン二二月  
二九日号

———  
赤軍声明  
一九八八年一月八日  
日本赤軍  
資料(③)  
ラジュブ氏も、一月三日追放令を  
うけ、連行された。  
一月八日 A F P  
———

韓国民、フィリピン人民の闘いへの国際主義的連帯が、人民の闘いの前進を作り出しているように、パレスチナ被占領地人民の闘いに連帯し、支援していくことが問われています。

この支援、連帯は、個別パレスチナ被占領地人民の闘いを支援―連帯するということにとどまらず、世界の反帝勢力の闘いを前進させるものとなります。

- パレスチナ  
ガザのジャバリエ・キャンプで、デモ隊に対し、イスラエル軍が発砲。パレスチナ人一人を殺し、九人の子供を負傷さす。
- 一二月一〇日（木）  
レバノン
- ハジビヅラ、昨日、対イスラエルー「SLA」攻撃をしかけ、大被害与えたと発表。
- アマル、南部の領海侵犯を行い、接近してきたイスラエル艦を追い払ったと発表。  
パレスチナ
- ガザ、西岸での大レジスタンス。  
昨日、イスラエル軍が発砲し、殺されたり、負傷したりというパレスチナ人多数。
- 米帝  
● N A T O 同盟国と同等の地位をイスラエルに与えた。
- 一二月一日（金）  
被占領地パレスチナ人民の蜂起
- 西岸ナブルス近くのバラタ・キヤンプで、イスラエル軍がデモ隊に発砲。パレスチナ人の子供三人を

- レバノン南部の反イスラエル・レバノン側の発表。実際は五人)。
- 米国務省、バラタ・キャンプでの虐殺に対し、「イスラエルの実力行使に遺憾の意」表明。イスラエル当局、パレスチナ人側に「自重」を呼びかける。
- 西ベガード、レジスタンス側が「S.L.A」装甲車一台を破壊。
- イスラエル軍の戦車隊がジヤジー地区へ侵攻開始。イスラエル軽コマンドのボートと交戦。コマンドのボート撃沈されたが、イスラエル兵一名をせん滅。
- 西岸ナブルス近くのバラタ、アンヌカール両キャンプは外出禁止令に抵抗し、学校・商店閉鎖等、ゼネスト状況。イスラエル軍への投石、火炎びん攻撃。
- エルサレムは、ナブルスへの連絡スト。ラマッラ、ヘブロンでも、イスラエル軍への投石。
- エルサレムの米領事館に火炎びん

- イスラエル軍は、ナブルスで発  
数名を負傷させた。
- レバノン南部の反イスラエル・レ  
スタンス
- レジスタンス側が、「S L A」  
イスラエルの合同パトロールを  
撃し、イスラエル兵一名せん滅。  
レジスタンス側とおぼしき諸村を  
封鎖し、一軒一軒しらみつぶし  
ローラー作戦。三人の村人を拉致  
し、キヤム收容所にぶちこんだ。  
ガルフ戦争
- イラン外相、今日、三日間のパ  
スタン訪問了。
- エジプトのムバラク大統領、アサ  
ド大統領との会談を提唱し、リビ  
アの反エジプトの立場を批判。  
●エジプト国防相、一四日から  
ウェーホ公式訪問を発表。

一二月一三日（日）

被占領地パレスチナ人民の蜂起

- イスラエル側は、ガザ、西岸蜂起  
六日めの今日、死者六人、負傷四  
五人程度と発表。負傷者は銃でう  
たれ、ムチでうたれたりしている  
イスラエル軍は、パレスチナ人を  
逮捕した後、拷問している。そし  
て、「ガザ、西岸の治安再確立さ

- イスラエル紙の中には「蜂起」「(パレスチナ)民間人の決起」という見出しでガザ、西岸の蜂起を報道し始めるものあり。
- 国連副総長グールデン、中東和平国際会議にむけ、本日からヨルダンを二日間訪問。
- ガルフ戦争
- ヨルダンのフセイン国王、ガルフ歴訪開始。U A E から(ムスタクバル誌は、「ガルフから外国軍隊を撤退させ、エジプト海軍を入れるプラン進行中」と伝える)。
- イラン・イラクの砲撃戦、激化。イランは、とくにバストに圧力をかけている。
- 一二月一四日(月)
- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- ガザは商店のスト続く。西岸のナブルス、アル・ビレ、ラマッラーではデモ、投石。
- イスラエルはヘブロンの大学生のデモに発砲。
- ワシントンで、米－イスラエル戦略同盟合意一〇年間延長に調印。ラビン国防相が訪米中。これで、イスラエルはN A T O レベルの軍事同盟国となつた。同種の対米軍

ることにより、キャンプ戦争を終らせる、すべての努力と能力を敵帝国主義とシオニストに向けること。

第二に、PLOとシリアルが和解し、両者間の同盟を回復すること。現時点において、これは人民の蜂起に対する最大の贈り物となるでしょう。

第三に、敵の同盟に対抗する民族主義的パレスチナ人－シリアル人－レバノン人の同盟の役割と機能を回復すること。これは、人民蜂起への日本大な支援になると同時に、帝国主義－シエラヌスの野望に対する手痛い打撃となるでしょう。

第四に、PLOのもとに、パレスチナ人の国民的团结を強化すること。これはPLOの民族主義プログラムと四月のPNC会議を尊重し、すべてのパレスチナ組織が、唯一合法的なパレスチナ人の代表PLO内で働くよう訴えることで実現されるべきです。

第五に、人民蜂起はパレスチナ問題とパレスチナ人民の合法的権利こそがアラブ－シオニスト闘争の核をなしていることを再認識すること。

この蜂起はキャンプデービッド合意で示されたのとは全般的に矛盾する闘争の構図を描き出しました。私はエジプトの民衆と国民軍に対し

あらゆる形態で蜂起を支援する行  
を起こすよう訴え、シオニストの  
から、大使を引き上げ、エジプト  
あるイスラエル大使館を閉鎖し、  
ヤンブデービッド合意を取り消す、  
で闘うことを要求します。

第六に、すべてのアラブ解放運  
の力を統合して、帝国主義・シオ  
ストの侵略に対しても向けること。  
だちに人民の蜂起を支援するため  
適切な組織、枠組みを作り、行動  
起こすよう訴えます。

シオニストの残酷な抑圧政策に  
んがみ、国連とデクエアル事務總  
に対し、ただちに国際調査委員会を  
組織し、占領地を視察し、シオニ  
トのパレスチナ人に対するテロ的・  
犯罪的な行為の調査を実行するよ  
訴え、占領下のパレスチナの都市、  
村、キャンプからのイスラエル軍、  
国境警備隊の撤退を要求します。

同時に、国連総会と安保理事会に  
対し、国際監視団を占領地区に緊急  
派遣し、パレスチナ人民の安全を確  
保するとともに、「イスラエルによ  
る」再三の国連決議とすべての国際  
的人権法、憲法違反を止めさせると  
う要求します。

私たちは、すべての国際的な人道  
主義的・法律的組織と機関、とくに

## 激動の中東

二

一九八七年二月八日  
一九八八年一月七日

米・イスラエルの二カ国が反対し、EC等の三六カ国が棄権。

- カイロ訪問した西独外相とエジプト政府が、ローン負債約五億二〇〇万ドルのリスクに調印。
- ソ米サミット
- 本日からワシントンで。  
一二月九日（水）
- 南部  
レバノン

- イスラエルは、「ガザはおさまつた」としている。
  - シャミル首相、ヨルダン・エジプト・イスラエルのカイロでの和平会議を提唱。
  - PLO幹部、伊大統領のイスラエル訪問をひかえるよう要請。
  - 南部レバノンの反イスラエル・レジスタンス側は「S.L.A.」六名せん滅と発表。
  - ハスピアで、激戦。レジスタンス側は「S.L.A.」六名せん滅と発表。
  - ガルフ戦争
  - 米議会、バーレーンへのステインガード・ミサイル七〇基売却に合意
  - 一二月一八日（金）  
被占領地パレスチナ人民の蜂起
  - ガザで、さらに二名が殺され、六人けが。人けが。
  - ガザのシファ病院にイスラエル軍が突入。同病院を「軍管区」指定し、外国人記者の立ち入り禁止。
  - 病院内で入院中のけが人、見舞の肉親、病院スタッフ等に暴行し、四〇人以上を拉致（けがして入院している人を含む）。
  - ガザの労働者数千人、「イスラエル」での労働拒否。
  - エルサレムのアル・アクサ・モスクで、礼拝中のパレスチナ人に対

89

- イスラエル軍が催涙弾をうちこむ。老人一人が失神し、死亡。
  - この日、同モスクへのエルサレム外からの礼拝者、しめ出された。
  - キリストのイスラエル大使館にキリスト教徒がデモ、投石。
  - レーベン、「懸念」を表明。
  - ベルギー、オランダ等も、ヘルツォグ大統領に対し、「懸念」を表明。
  - ベイルートのアン・ナハール紙にパレスチナ聖戦機構が声明、米人質の写真を発表し、被占領地蜂起へのイスラエルの血の弾圧に警告。
  - ハジビッラー戦士数千人が、レバノンで被占領地連帯スト。レバノンのパレスチナ・キャンプでも連帯デモ、すわりこみ。
  - アラブ連盟が緊急評議会を召集。ガルフ戦争
  - サウジアラビア、軍事産業推進にむけ、代表団をカイロ訪問させたとするレバノン誌の報道を公式否定。
  - 駐国連米大使、ガルフへの国連軍派遣ソ連案の検討用意ありと発言

ガ

- 二月九日（土）

  - 被占領地パレスチナ人民の蜂起
  - エルサレムで、二〇歳のパレスチナ人青年が射殺されたうえに、イスラエル軍用車にひかれた。
  - 四七年ライン（「イスラエル」）在住のパレスチナ人數千人がナザレで、連帯デモ。二一日には、ゼネスト予定。
  - 日帝外務省、「懸念」を表明。イスラエル軍撤退を要求した国連決議二四二の実践を提唱。
  - ガルフ戦争
  - サウジのアブダッラー皇太子、イラク、シリア、エジプト、ヨルダン歴訪に出発。
  - クウェートで、エジプト製兵器展示会。
  - 米帝、モロッコ空軍との合同演習（一五日間）、本日了。

二月二〇日（日）

  - 被占領地パレスチナ人民の蜂起
  - 西岸ナブルス北のバラア・キヤンプ、ガザのカーレン・ユニスでイスラエル軍と衝突。六名がけが。
  - イスラエル、昨日、エルサレムのデモ鎮圧時、機動隊員三名が負傷したのを認めた。
  - ギリシア正教のカプチ司教（六歳）、ローマのアラブ連盟事務

一

- 所で、抗議、連帯のハンガーストに入る。
  - 米国務省、イスラエルに対し、「騒擾の収拾は、火器を使わないでやるよう」申し入れた。
  - エジプト外務省、イスラエル大使を召請し、「ガザのパレスチナ人にに対する暴行を止めるよう」申し入れ。
  - バグダッドで、PLOが明日二日のゼネストを指令。
  - サウジのアブダッラー皇太子、ダマスカス訪問。
  - オマーンの外務担当国務相も、ダマスカス訪問。
  - 一二月二一日（月）  
被占領地パレスチナ人民の蜂起——  
ゼネスト
  - 西岸北部で、無数の火炎びん、鉄パイプ攻撃。イスラエル軍が、これに発砲し、三人が殺され、多数が負傷、逮捕された。ガザは「比較的平穏」とされる。
  - エジプトのコプト教会重鎮、今年のペツレヘムでのクリスマス行事の中止をよびかけた。回教同志会も、抵抗戦をアピール。
  - ゴラン（被占領下）のシリア人民も、連帯スト、デモ。

- 米帝國務省北アフリカ、近東局長のマーフィー、「国際的に承認された基準に合わない」治安措置という表現の仕方で、イスラエルを批判。
  - ソ連、英、中国、仏、東西独、トルコが、イスラエルの「実力行使」を批判。
  - カルフ戦争
  - エジプト国防相、本日から四日間のクウェート公式訪問開始。
  - OPEC年次総会で、八八年度の原油価格現行維持を決定。

ガルフ戦争

- ストと同時に、商業相シャロンがモスレム区のアパートを占拠したのに抗議して、商店がスト（シャロンは、八二年のレバノン侵略時の国防相）。エルサレム市内は戒厳令的緊張。
  - アラファト議長、国連安保理に対し、イスラエル軍の暴虐からパレスチナ人民を防衛するため、国連平和維持軍派遣を要請。
  - アラブ連盟が緊急会議。会議後、一九六七年ライン内のパレスチナ人の防衛を国連に要求。
  - PLO代表団へ執行委員のアブ・マーザン、ヌーラ（ニ含む）カイロ訪問。ムバラク大統領、アブダル・マギド外相、アル・バズ大統領顧問等と会見。また、アブ・ジハドは、ヨルダン訪問し、被占領地相ドウティンと会見。
  - クウェート、イスラエルを批判。
  - レバノン南部の反イスラエル・レジスタンス側、「セキュリティゾーン」以北へ二キロ侵略してきたイスラエル軍と四時間交戦し、撃退す。
  - エジプト外務省、イスラエルのレバノン再侵略に対して警告。

- イラン、ギリシアのタンカーを攻撃し、甲板に大穴あけた。
  - 日帝外務省中東・アフリカ局長木村、国連総長のガルフ戦争終結調停努力に対し二〇〇〇万ドルの援助、ガルフに国連軍派遣となつた際には財政援助を行うと発言。
  - 一月二六日（水）  
被占領地パレスチナ人民の蜂起
  - エジプト→ガザ国境のラファで、イスラエル兵一名が刺された。イスラエル軍は発砲し、パレスチナ人三人を負傷させた。ガザのジバリエ、又セイラト両キャンプ、ガザ市のシファ病院近くでのデモ投石にも発砲し、四人を負傷させた。昨日から、シファ病院内外での衝突、激化。
  - イスラエル南部軍管区司令官、ガザの名士をよびつけ、イスラエル軍への抵抗を止めさせるよう通告し、シャミル首相は「今回の騒擾は、テロリスト組織が煽動したもの。人命の損失は、遺憾である。しかし、現在的には、事態の收拾が進んでいる」と発言（ガザへの部隊増強をさす。現在二〇〇〇の部隊になつた）。
  - PLOは、「人口密集地帯からイスラエル軍を撤収させ、国連軍を

- イスラエルTVが、ガザでの蜂起場面を放映。その中に、イスラエル軍が、いきなりデモ隊をウジ・マシンガンで射撃する場面が出た。これが、シン・ベト（国内治安担当局）要員の蜂起鎮圧のやり方であることが、計らずもイスラエル国民の目に明らかにされた。
  - イスラエルの五紙、シャミルの強硬政策を批判。
  - ギリシア、ヨルダンがイスラエルを批判。
  - イスラエルは、この八日間の死者を一五人と発表。PLO側は、四三人であると反論。
  - 駐イスラエル大使、シャミル首相と会い、蜂起鎮圧の「やりすぎ」に抗議。
  - 本日、「SLA」攻撃、数回。南部レバノンの反イスラエル・レジスタンス
  - イスラエル、レバノン南部を「セキュリティゾーン」内から砲撃。
  - 二月一七日（木）被占領地パレスチナ人民の蜂起化。  
ガザ、西岸でのレジスタンス、激化。



エルー「S L A」合同拠点を攻撃  
四〇分間の戦闘で、敵兵八名せん  
滅。味方一名が戦死。

一月二日（土）

- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のラマッラー、アル・ビレは、商店ストに突入。
- レバノン南部の反イスラエル・レジスタンス
- イスラエル、ペイリーートーサイダ間の都市、サイダのキャンプ等を爆撃。死者は、確認されただけで二六人、負傷者数十人。死者の中には七人の子供、一人の婦人。
- ガルフ戦争
- イラク、マルタ船を爆撃。同船は、クウェートから中国むけ肥料を運ぶものであつたが。
- iran外相、ガルフ諸国からの「対話」姿勢を原則的に歓迎すると発言。

一月三日（日）

- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- イスラエル、九人のパレスチナ人の追放令出す（資料参照）。うち四人は、抗議のハンガーストライキに入った。この九人の弁護をひきうけたフェリシア・ランゲル女史（イスラエル人）、軍事法廷に

- エルサレム近くのラム村で、洗濯中の婦人が、イスラエル兵に追われていた少年の救助にのり出し、二、三メートルの至近距離から胸を射られ、殺された。イスラエル軍側は、「生命の危険があると判断した場合にのみ発砲せよ」とする軍規違反があったと、懐柔的姿勢。
- アル・アムリ、トルクラム両キヤンプ（西岸）に外出禁止令。
- ガザでは、商店ストを続けさせようとする中・高校生とイスラエル軍がいたちごっこ。国外追放者名発表へのレジスタンス。
- ボンで数千人のパレスチナ人、アラブ人がデモ。
- 米帝国務省、ラム村の殺人、南部バノンでイスラエルの爆撃で殺された二六人には「悲しみ」を表明しつつ、「だからこそ、イスラエル北部・南部レバノンの安定が必要」。
- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- 昨日、婦人一名が殺された西岸のラム村で、一・五時間の街頭戦。
- ガザ市中心区では、青少年がゲリ

- ガザのカーン、ユニス、ラファア、西岸のナブルス、ラマッラ、アル・ビレ、エルサレムではほとんどの商店がスト継続。
- ビール・ゼイト大の大学生、パリケード築いて、イスラエル軍の進軍を阻止。
- イスラエル軍は、各所で実弾、ゴム弾、催涙弾で攻撃。
- ヨルダンの被占領地相、イスラエルの追放政策を批判し、「うけ入れない」と言明。
- PLO、エジプト、ヨルダン、レバノンに対し、イスラエルから追放されたパレスチナ人を受け入れぬよう要請。
- イスラム諸国会議のエルサレム委員会が、モロッコで緊急会議。ただし、シリア、イラン代表は本日欠席。
- アラフアト議長、パレスチナ亡命政府構想を示唆。
- 八八年度予算を閣議で了承。総額三一〇億ドル。保健、教育、政府予算是削減したが、国防費は手つかずで通過した。
- ガルフ戦争

- 八七年度のタンカー戦で攻撃された船は計一七八隻。うち一二月度は三四隻。
- 日帝、米帝に対する善意のしるとして、今年度のイラン石油輸入の三〇%減を国内の石油輸入会社に指示。
- サウジのアブダッラー皇太子、更びシリアルへ。
- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- ガザで、イスラエル軍が二名を殺し、七人けがをさせた。イスラエル兵五人が投石うけて軽傷（カーン・ユニスのハサン・アブ・シヤクラが追放令うけたことへの抵抗）。
- エルサレムで、パレスチナ人名士たちが、九人の追放令解除しないなら、納税拒否、イスラエル製ボイコット等の抗議を行うと警告
- 西岸のトルクラムで、パレスチナ婦人が「石でイスラエル兵を攻撃しようとした」ため、射殺された。
- 英外務省中東局長メラーがガザのジャバリエ・キャンプに入り、イスラエル軍の血の弾圧を現場調査

エルー「S L A」合同拠点を攻撃  
四〇分間の戦闘で、敵兵八名せん  
滅。味方一名が戦死。

一月二日（土）

- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- 西岸のラマッラー、アル・ビレは、商店ストに突入。
- レバノン南部の反イスラエル・レジスタンス
- イスラエル、ペイリーートーサイダ間の都市、サイダのキャンプ等を爆撃。死者は、確認されただけで二六人、負傷者数十人。死者の中には七人の子供、一人の婦人。
- ガルフ戦争
- イラク、マルタ船を爆撃。同船は、クウェートから中国むけ肥料を運ぶものであつたが。
- iran外相、ガルフ諸国からの「対話」姿勢を原則的に歓迎すると発言。

一月三日（日）

- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- イスラエル、九人のパレスチナ人の追放令出す（資料参照）。うち四人は、抗議のハンガーストライキに入った。この九人の弁護をひきうけたフェリシア・ランゲル女史（イスラエル人）、軍事法廷に

- エルサレム近くのラム村で、洗濯中の婦人が、イスラエル兵に追われていた少年の救助にのり出し、二、三メートルの至近距離から胸を射られ、殺された。イスラエル軍側は、「生命の危険があると判断した場合にのみ発砲せよ」とする軍規違反があったと、懐柔的姿勢。
- アル・アムリ、トルクラム両キヤンプ（西岸）に外出禁止令。
- ガザでは、商店ストを続けさせようとする中・高校生とイスラエル軍がいたちごっこ。国外追放者名発表へのレジスタンス。
- ボンで数千人のパレスチナ人、アラブ人がデモ。
- 米帝国務省、ラム村の殺人、南部バノンでイスラエルの爆撃で殺された二六人には「悲しみ」を表明しつつ、「だからこそ、イスラエル北部・南部レバノンの安定が必要」。
- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- 昨日、婦人一名が殺された西岸のラム村で、一・五時間の街頭戦。
- ガザ市中心区では、青少年がゲリ

- ガザのカーネン、ユニス、ラファア、西岸のナブルス、ラマッラ、アル・ビレ、エルサレムではほとんどの商店がスト継続。
- ビール・ゼイト大の大学生、パリケード築いて、イスラエル軍の進軍を阻止。
- イスラエル軍は、各所で実弾、ゴム弾、催涙弾で攻撃。
- ヨルダンの被占領地相、イスラエルの追放政策を批判し、「うけ入れない」と言明。
- PLO、エジプト、ヨルダン、レバノンに対し、イスラエルから追放されたパレスチナ人を受け入れぬよう要請。
- イスラム諸国会議のエルサレム委員会が、モロッコで緊急会議。ただし、シリア、イラン代表は本日欠席。
- アラフアト議長、パレスチナ亡命政府構想を示唆。
- 八八年度予算を閣議で了承。総額三一〇億ドル。保健、教育、政府予算是削減したが、国防費は手つかずで通過した。
- ガルフ戦争

- 八七年度のタンカー戦で攻撃された船は計一七八隻。うち一二月度は三四隻。
- 日帝、米帝に対する善意のしるとして、今年度のイラン石油輸入の三〇%減を国内の石油輸入会社に指示。
- サウジのアブダッラー皇太子、更びシリアルへ。
- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- ガザで、イスラエル軍が二名を殺し、七人けがをさせた。イスラエル兵五人が投石うけて軽傷（カーン・ユニスのハサン・アブ・シヤクル）が追放令うけたことへの抵抗）。
- エルサレムで、パレスチナ人名士たちが、九人の追放令解除しないなら、納税拒否、イスラエル製ボイコット等の抗議を行うと警告
- 西岸のトルクラムで、パレスチナ婦人が「石でイスラエル兵を攻撃しようとした」ため、射殺された。
- 英外務省中東局長メラーがガザのジャバリエ・キャンプに入り、イスラエル軍の血の弾圧を現場調査
- イスラエルの「いきすぎ」を批判

- イスラエル、西岸の入植村に計七個の手紙爆弾がトルコから送られてきたと発表。
- エジプト、シリア、ヨルダン、レバノンとともにの中に入る準備あり」と発言。
- 米帝、ガルフへの国連軍派遣を検討すると、初めて発表。
- 米海兵隊司令官、バーレーン入り
- 被占領地パレスチナ人民の蜂起
- イスラエル首相シャミル、エルサレム近くのパレスチナの町アブ・ゴシエを訪問し、「米国の忠告は聞きおくとして、追放は行う」と発表。
- 一二月二九日（火）  
一、二月二一日にイスラエル軍に射たれて入院していた少年（一七歳）のムスタファ・アル・バク。ガザのジャバリエ（キャンプ）が死亡これで死者が二三人になった（イスラエル側の発表した数字）。
- イスラエルは一月一日のファタハ・デー（ファタハ創立記念日）予防検査キヤンペーン、開始。
- 西岸のパレスチナ人弁護士も、ガザに呼応し、「騒乱罪」軍事法廷ボイコットを宣言。
- パリでは、約四〇〇人の仏市民が

- 英外務省中東局長ミラー、本日スラエル入り。イスラエルの占領政策を批判している。
- ムバラク大統領、訪米前から英、西独、伊を歴訪するだろう。西側外交筋が語る。
- ガルフ戦争
- アサド大統領書簡を携え、シリ外相が再びイランへ。
- 米国防総省、カールツチ国防長が三日からガルフ歴訪すると発表
- 一二月三〇日（水）  
被占領地パレスチナ人民の蜂起
- ガザ、西岸で散発的な衝突。
- PLOのアブ・ジード、イスラエルから追放されたパレスチナ人入国拒否を行うという確約をレノン、ヨルダン、エジプト、シリアから得ていると発表（国外追加の事実上の拒否）。
- アラファート議長、バグダッドか開港場「エルサレムを首都とするパレスチナ建国にむけ、さらに果敢に闘おう」と、ファタハ・デーのビール。また、仏紙とのインタビューでは、イスラエル国会議員がループと、イスラエル・パレスチナ連邦案について討議する準備をりと語った。その旨の書簡を先週

うけとったとしている。

●被占領地パレスチナ人民の蜂起

●エルサレム近くのアマリ・キヤンで、イスラエル軍将校一名が、坦克石うけて頭部負傷。

●イスラエル軍、ナブルス市近くのバラタ、アシュカルの両キャンプへの外国人記者立ち入りを禁止。ナブルスの軍事法廷では、家紗の安否を確かめに来たパレスチナ人（婦人含む）が、法廷警備部隊に投石。警備部隊は、誰かれ構わず警棒でなぐりつけ、ゴム弾で攻撃。それでも、ひるまず、婦人たちは家族をとり返そうと前進してゐみあう。

●「イエシ・グブル」運動（「ものには限度がある」。八二年のレバノン侵略時にできた反軍、えん封グループ）が予備役一五〇人以上（将校二八人含む）の兵役拒否声明発表。西岸、ガザでの蜂起鎮圧にむけた動員令を拒否した。

●エルサレム、ベツレヘムのパレスチナ人経営のホテルは、正月のパーティ中止。

- エジプトで反イスラエル・パレスチナ人民連帯デモ。機動隊がアイン・シャムス大の外で学生を規制し、多数逮捕。
  - イスラエル軍参謀総長、ガザ、西岸への部隊増強を決定。
  - 国連で、イスラエルによるパレスチナ人追放弾劾決議採択。この六年間初めて、米が反イスラエル投票を行った。反対票は、イスラエルのみ。
  - ベレス外相、アラファト議長のパレスチナ亡命政府構想を拒否。
  - アンマンで、「アブ・ザイム」(反アラファート・親ヨルダンの「ファタハ整風派」)、パレスチナ亡命政府プランを批判し、被占領地パレスチナ人民の蜂起を支えるカンパニ基金樹立をアピール。
  - 西独社会民主党幹部、ペレス外相に「火器使用の鎮圧抗議」の電報を送った。
  - ガルフ戦争
  - 米帝、エジプトのムバラク大統領を一月二八日に招待。
  - ソ連共産党高官、クウェート入り
  - カイロのアイン・シャムス大で、反イスラエル、反政府集会、デモ内相は「治安を乱す分子には厳しくあたる」と声明。

一月六日(水)

被占領地パレスチナ人民の蜂起（九人の追放問題が、争点とな

- 一月六日(水)  
被占領地パレスチナ人民の蜂起  
(九人の追放問題が、争点となつて  
いる)

  - ナブルス近くのバラタ・キャンプでは、五〇人の婦人デモ隊に対するイスラエル軍の暴行(ゴム弾をうちこむ、け散らす、警棒、銃床でなぐりつける、等々)をTVカメラに収めた英のTVチームが逮捕された。キャンプ視察中の英労働党幹部の介入で、やっと釈放された。
  - 西岸のトルクラムで、三人の少年が出勤途中のイスラエル軍用車を襲撃。同乗していたイスラエル軍女性兵士をナイフで殺そうとした時、運転席のイスラエル軍将校が頭をうちねいた。
  - バラタ・キャンプ、トルクラム、カルキリアに外出禁止令。
  - ラビン国防相、イスラエル国会で蜂起鎮圧の報告。蜂起は、ファッハ、PFLP、イスラム原理主義潮流の煽動が原因で、先月度の逮捕者一九七八人、釈放者九〇八人既決者三〇〇人、残りが裁判待ちと報告。
  - PLO、英外務省中東局長のイスラエル批判に感謝を表明。

●オランダ政府、イスラエル政府の追放政策を批判。

- ガルフ戦争
  - ムバラク大統領、クウェート紙との記者会見で、「ガルフへのエジプト軍派遣は決定していない」「イスラエルからエジプト大使召還することは、得策たりえない」と語る。
  - 米国防長官カールツチ、バーレーン入り。
  - シリアのカッダム副大統領、シャラア外相、クウェート入り。この後、バーレーン、カタール、UAE、オマーンを歴訪するとされる。
  - 被占領地パレスチナ人民の蜂起傷。
  - ガザのヌセイラト・キャンプではイスラエル軍は一軒一軒の家をしらみつぶしに調べ上げ、追い出し道路にすわらせた上で後頭部をなぐり、モスクにも押し入った。
  - ガザのラファおよびジャバリエ・キャンプで、イスラエル軍は、より悪質なガスの使用。呼吸困難、嘔吐、火傷を負わせるが、催涙ではないらしい。

●ガザのカーン・ユニス・キャンプでは、三日連続の外出禁止令で食糧が底をついているが、イスラエ

- ガザのカーン・ユニス・キヤンプでは、三日連続の外出禁止令で食糧が底をついているが、イスラエルはUNRWAの食糧配布を禁止。他のキャンプでも、UNRWA救急車の負傷者救出作業を禁止。
  - 東エルサレムでデモの写真をとっていたパレスチナ通信社のザナリ氏、逮捕された。
  - 西岸では、今まで比較的平穡だったジェリコ等の町でもデモがスタート。
  - イスラエル、一五人に「行政拘束」を執行。拘留理由開示せぬ間に、最高六ヶ月拘束するもの。また、外国通信社の活動を規制。「軍管区」と指定して、立ち入らせない。
  - イスラエル国会外交・国防委員会委員長のエバン（労働党・国際会議推進派）、「現在のパレスチナ人の行っている騒擾は民族的蜂起の様相を帯びているのに、シャミル首相は、何ら解決策をうち出していいないと批判。

